
庄原市 地域福祉の推進に関する 関係団体調査

－ 報告書 －

令和4（2022）年3月
広島県 庄原市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
1 組織形態	2
2 主な活動分野	3
3 日頃の活動で困っていること	4
4 問題点や課題が多いと感じる分野	6
5 活発に進めるべきだと思う地域活動	7
6 地域福祉を推進するために行政が力を入れるべきこと	8
7 包括的な相談支援体制の整備について	9
8 地域福祉を充実していくために必要な取組（自由記述回答）	10
資料 調査票	25

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「第3期庄原市地域福祉計画」の策定に当たり、地域の福祉活動に関わっている団体や事業所を対象に福祉に関する現状や課題、意向等を把握し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

自治振興区及び市内において地域の福祉活動に関わっている団体等

【調査方法】

郵送配布～郵送回収

【調査時期】

令和4（2022）年1月

【回収結果】

配布数 ----- 279 件

有効回収数 ----- 187 件

有効回収率 ----- 67.0%

【報告書の見方について】

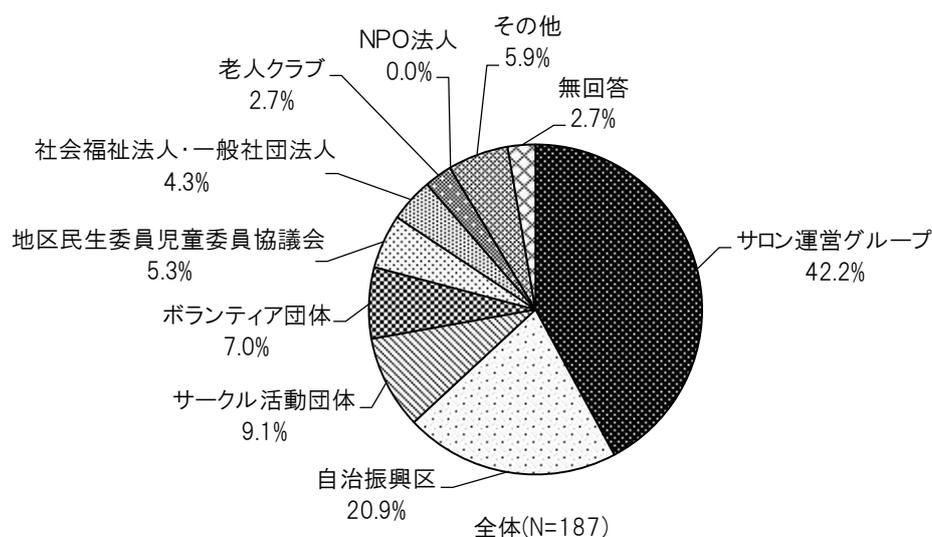
- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中におけるクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、組織形態別でクロス集計する場合における組織形態の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 調査結果

1 組織形態

問2 貴団体の組織形態は、次のどれにあてはまりますか。(○印1つ)

組織形態は、「サロン運営グループ」の割合が42.2%と最も高く、次いで「自治振興区」(20.9%)、「サークル活動団体」(9.1%)、「ボランティア団体」(7.0%)の順となっている。

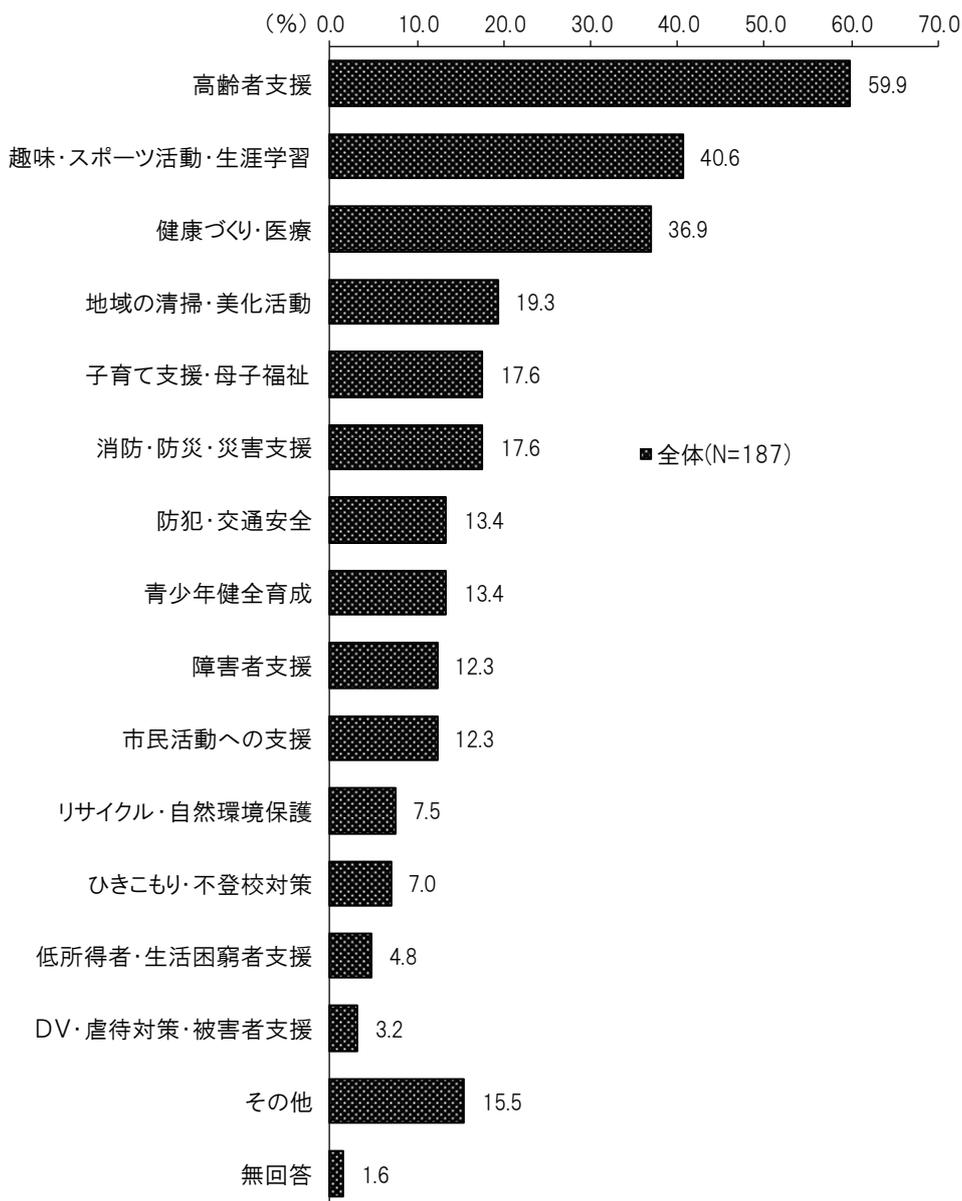


	回答割合 (%)	回答件数 (件)
全体	100.0	187
サロン運営グループ	42.2	79
自治振興区	20.9	39
サークル活動団体	9.1	17
ボランティア団体	7.0	13
地区民生委員児童委員協議会	5.3	10
社会福祉法人・一般社団法人	4.3	8
老人クラブ	2.7	5
NPO法人	0.0	0
その他	5.9	11
無回答	2.7	5

2 主な活動分野

問3 貴団体の主な活動分野をお答えください。(○印いくつでも)

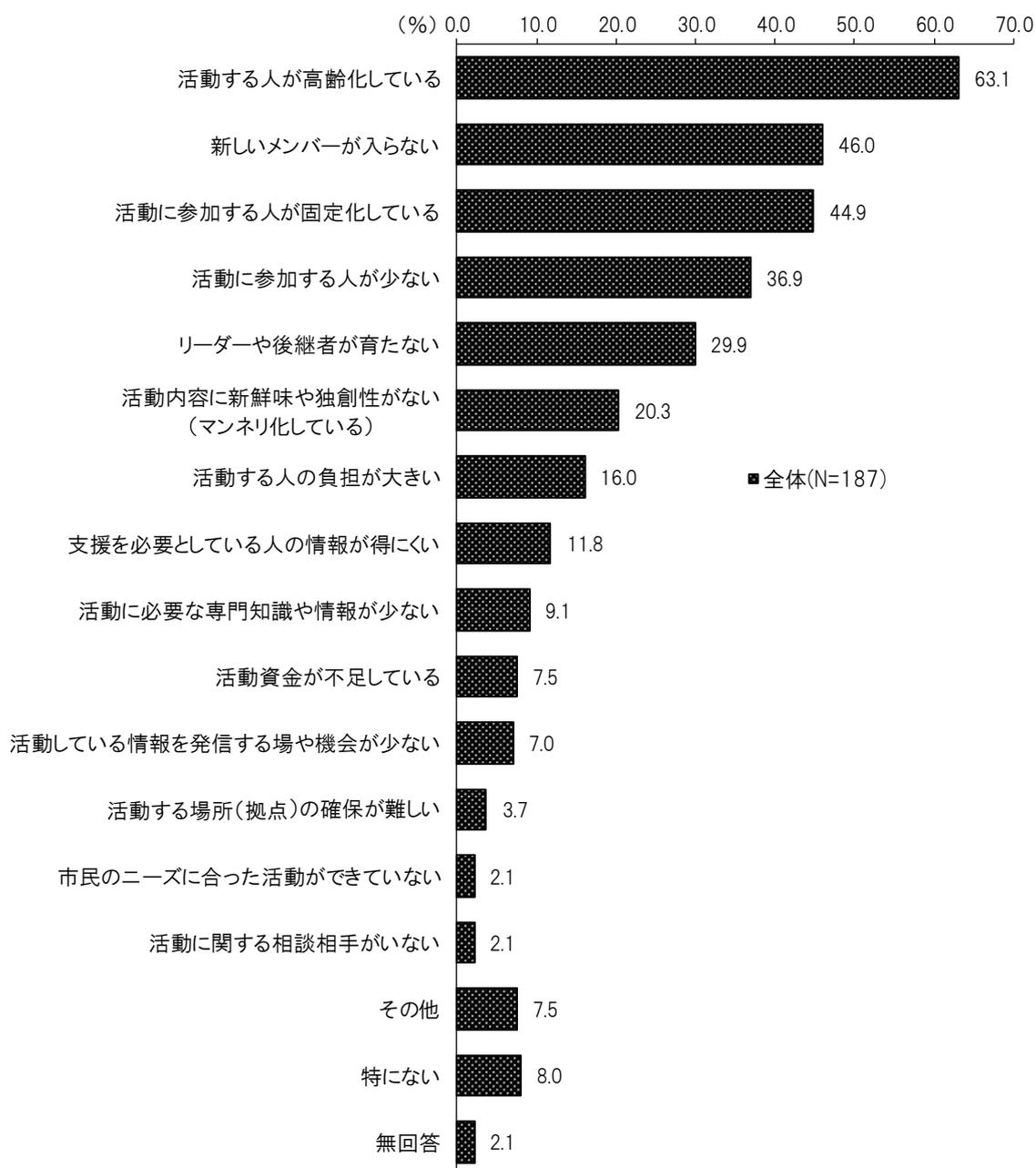
主な活動分野については、「高齢者支援」の割合が59.9%と最も高く、次いで「趣味・スポーツ活動・生涯学習」(40.6%)、「健康づくり・医療」(36.9%)、「地域の清掃・美化活動」(19.3%)の順となっている。また「その他」では、「住民間の交流」「地域の情報交換」「野菜づくり」「料理教室」などの回答がみられた。



3 日頃の活動で困っていること

問4 貴団体が日々の地域福祉活動を行う上で、困っていることはありますか。
(○印いくつでも)

日頃の活動で困っていることについては、「活動する人が高齢化している」の割合が63.1%と最も高く、次いで「新しいメンバーが入らない」(46.0%)、「活動に参加する人が固定化している」(44.9%)、「活動に参加する人が少ない」(36.9%)、「リーダーや後継者が育たない」(29.9%)の順となっている。



組織形態別でみると、自治振興区で「活動する人が高齢化している」「活動に参加する人が固定化している」「活動に参加する人が少ない」、地区民生委員児童委員協議会で「リーダーや後継者が育たない」の割合がそれぞれ他の層を大きく上回っている。

単位 (%)	活動する人が高齢化している	新しいメンバーが入らない	活動に参加する人が固定化している	活動に参加する人が少ない	リーダーや後継者が育たない	活動内容に新鮮味や独創性がない(マンネリ化している)	活動する人の負担が大きい	支援を必要としている人の情報が得にくい
全体(N=187)	63.1	46.0	44.9	36.9	29.9	20.3	16.0	11.8
【組織形態別】								
自治振興区(n=39)	87.2	48.7	79.5	53.8	43.6	33.3	30.8	25.6
地区民生委員児童委員協議会(n=10)	70.0	40.0	30.0	30.0	70.0	10.0	50.0	50.0
ボランティア団体(n=13)	69.2	53.8	23.1	30.8	38.5	7.7	0.0	30.8
サークル活動団体(n=17)	29.4	41.2	29.4	35.3	11.8	17.6	11.8	0.0
サロン運営グループ(n=79)	59.5	49.4	38.0	31.6	21.5	19.0	8.9	0.0
その他社会福祉法人・老人クラブ等(n=24)	50.0	37.5	41.7	37.5	29.2	16.7	12.5	12.5

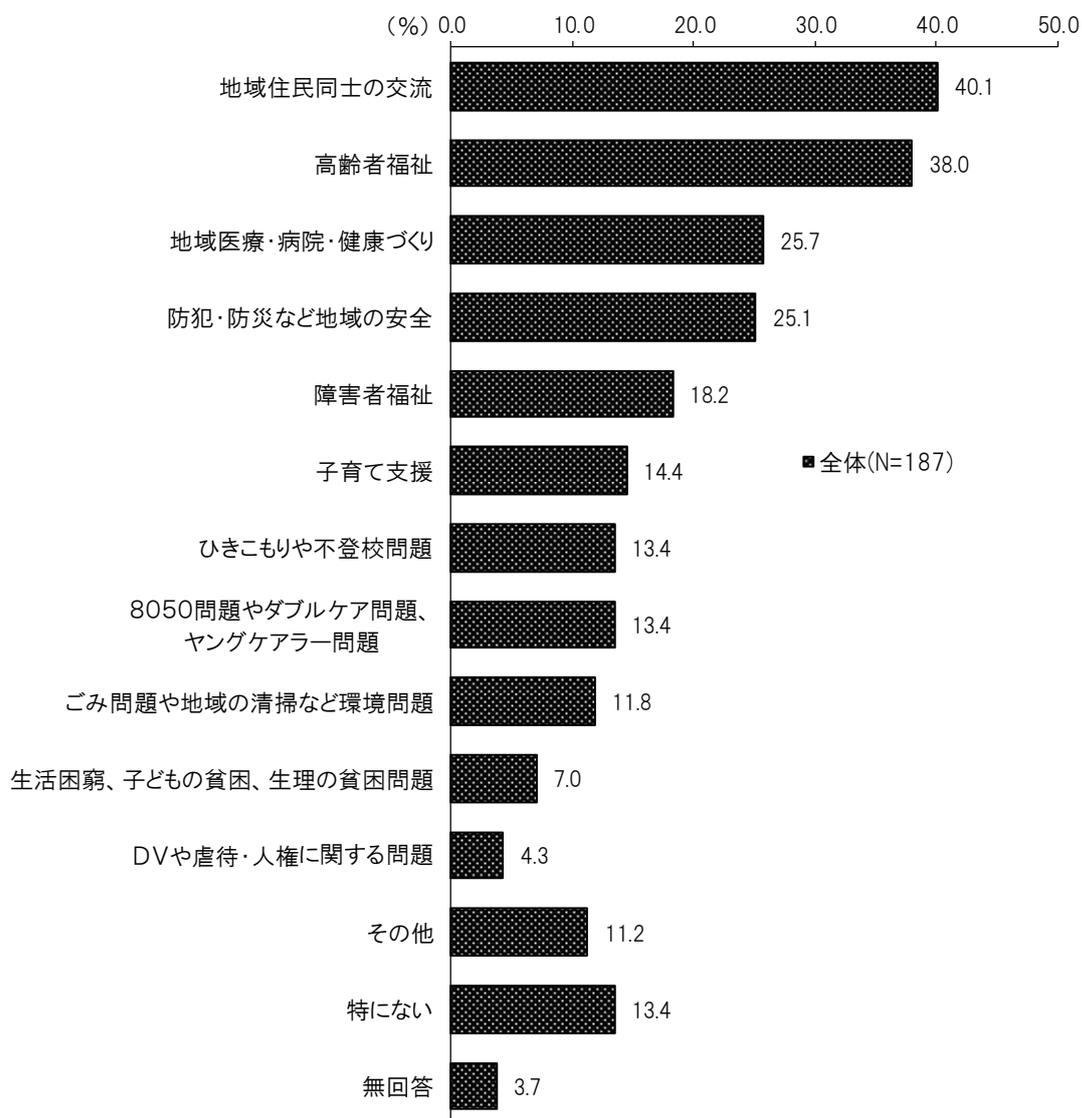
単位 (%)	活動に必要な専門知識や情報が少ない	活動資金が不足している	活動している機会が少ない	活動する場所(拠点)の確保が難しい	市民のニーズに合った活動ができない	活動に関する相談相手がいない	その他	特になし
全体(N=187)	9.1	7.5	7.0	3.7	2.1	2.1	7.5	8.0
【組織形態別】								
自治振興区(n=39)	15.4	12.8	7.7	10.3	7.7	2.6	5.1	2.6
地区民生委員児童委員協議会(n=10)	10.0	0.0	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
ボランティア団体(n=13)	7.7	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
サークル活動団体(n=17)	17.6	5.9	5.9	0.0	0.0	11.8	5.9	23.5
サロン運営グループ(n=79)	7.6	5.1	0.0	3.8	0.0	1.3	8.9	8.9
その他社会福祉法人・老人クラブ等(n=24)	0.0	16.7	12.5	0.0	0.0	0.0	16.7	8.3

注: 表中の「網掛け」は、各クロス集計(組織形態別など)において最も高い割合を示している。
 但し、回答割合が10%未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。
 また「無回答」は表記から省略している。

4 問題点や課題が多いと感じる分野

問5 貴団体の活動において、庄原市では、どのような分野に問題点や課題が多いと感じていますか。（○印いくつでも）

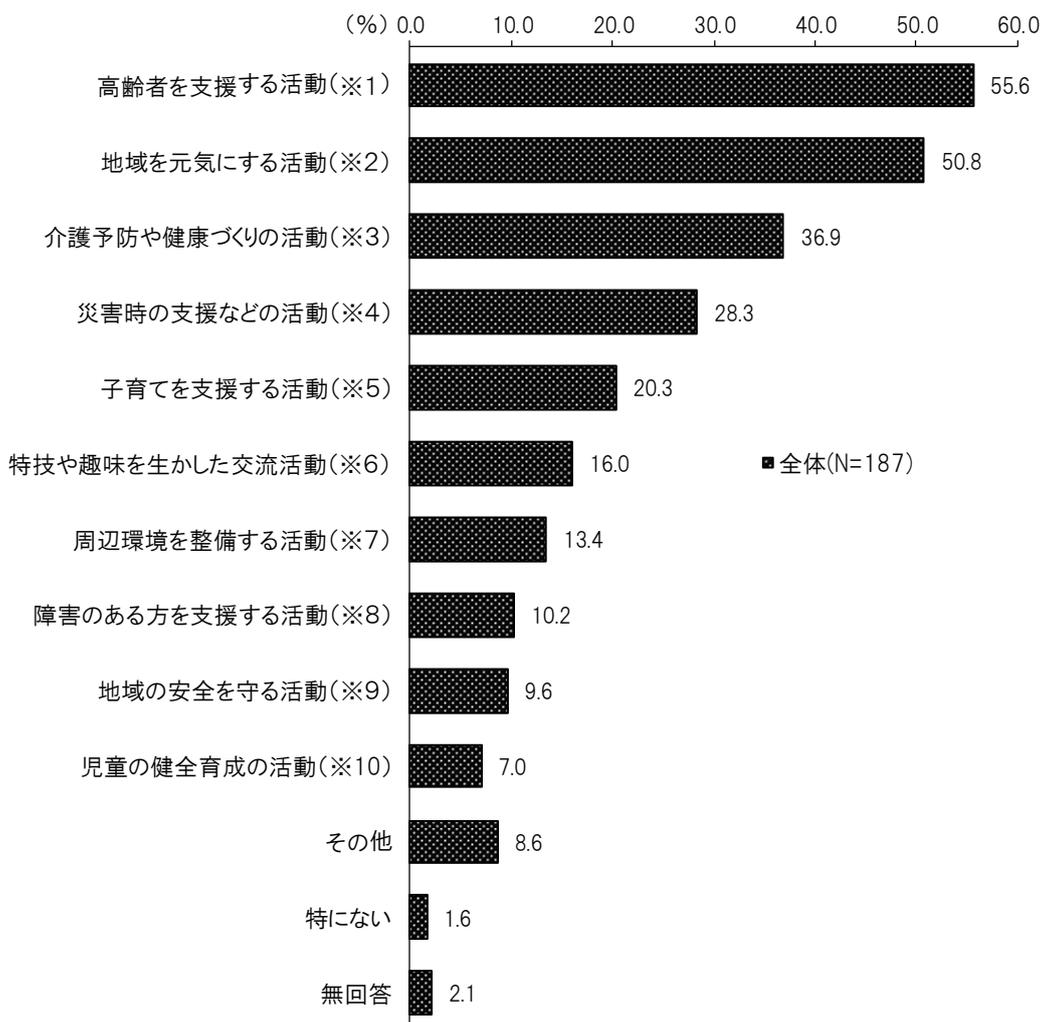
問題点や課題が多いと感じる分野については、「地域住民同士の交流」の割合が40.1%と最も高く、次いで「高齢者福祉」(38.0%)、「地域医療・病院・健康づくり」(25.7%)、「防犯・防災など地域の安全」(25.1%)、「障害者福祉」(18.2%)の順となっている。また「その他」では、「人口減少問題」「日常の買い物が不便」「市外の人にアピールできる特化したものがない」などの回答がみられた。



5 活発に進めるべきだと思う地域活動

問6 今後、庄原市では、どのような地域活動を活発に進めるべきだと思いますか。
(○印3つまで)

活発に進めるべきだと思う地域活動については、「高齢者を支援する活動」の割合が55.6%と最も高く、次いで「地域を元気にする活動」(50.8%)、「介護予防や健康づくりの活動」(36.9%)、「災害時の支援などの活動」(28.3%)、「子育てを支援する活動」(20.3%)の順となっている。

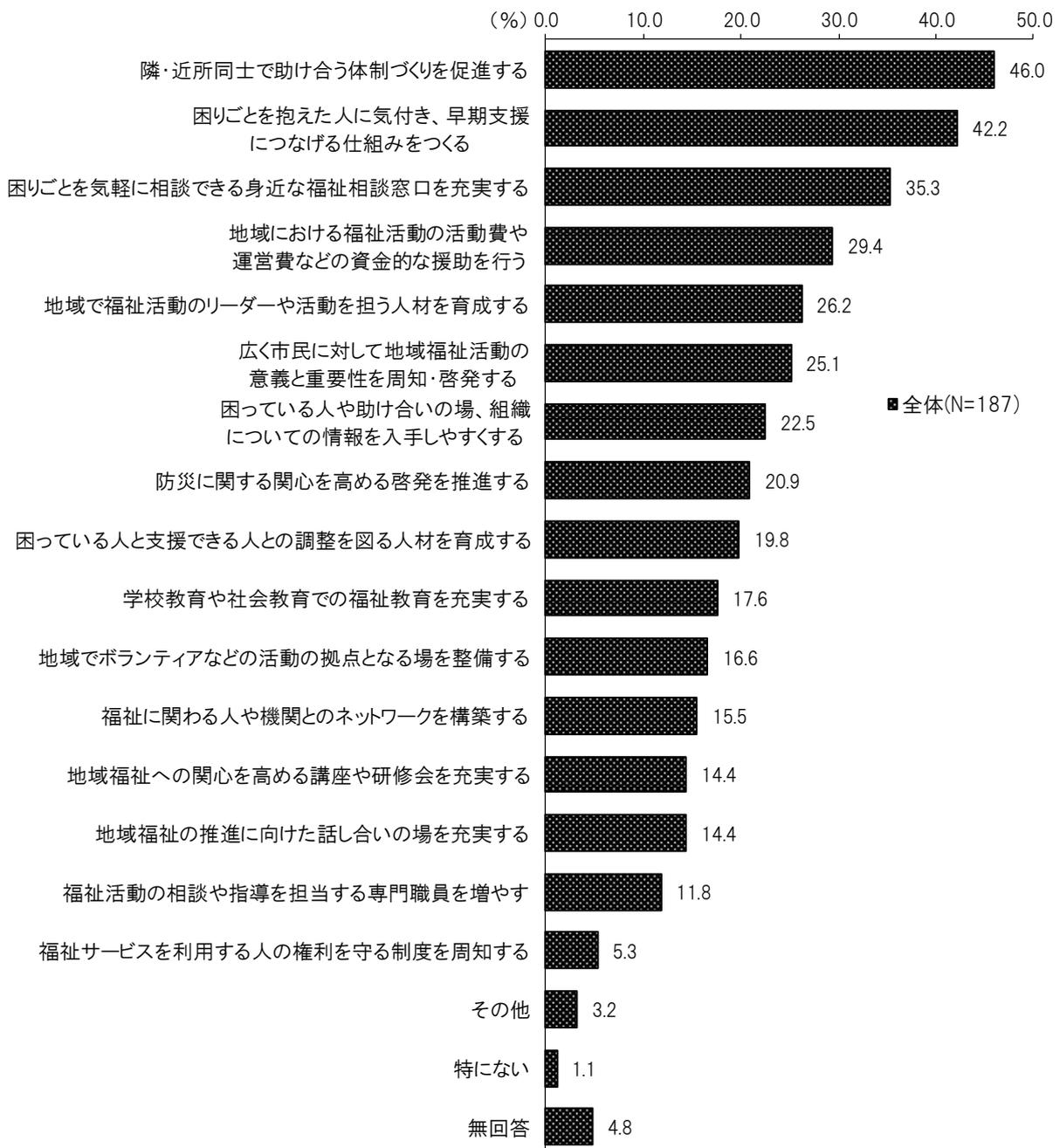


- ※1: 高齢者を支援する活動(家事援助、話し相手、見守り・声かけ、外出時の付き添いなど)
- ※2: 地域を元気にする活動(自治振興区や自治会での交流活動など)
- ※3: 介護予防や健康づくりの活動(運動教室、生活習慣病予防、食育など)
- ※4: 災害時の支援などの活動(物資の寄付、復興支援、災害時要支援者の見守りなど)
- ※5: 子育てを支援する活動(子育て交流会や乳児健診、児童の一時預かりなど)
- ※6: 特技や趣味を生かした交流活動(手芸、調理、農作業、スポーツ、外国語、パソコン、陶芸など)
- ※7: 周辺環境を整備する活動(道路・公園の清掃、リサイクルなど)
- ※8: 障害のある方を支援する活動(手話、点字、要約筆記、軽介助、外出時の付き添いなど)
- ※9: 地域の安全を守る活動(防犯パトロール、子どもの見守りなど)
- ※10: 児童の健全育成の活動(スポーツの指導、子ども会の活動など)

6 地域福祉を推進するために行政が力を入れるべきこと

問7 地域福祉を推進するために、行政（庄原市）はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○印5つまで）

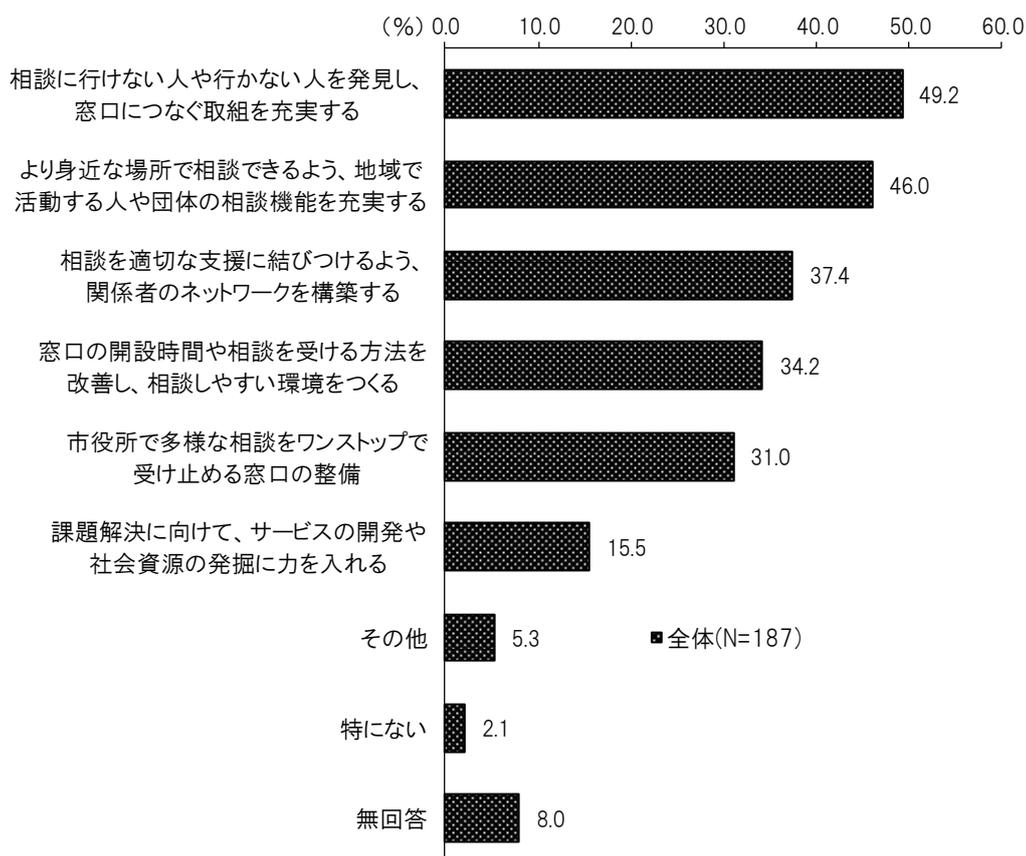
地域福祉を推進するために行政が力を入れるべきことについては、「隣・近所同士で助け合う体制づくりを促進する」の割合が46.0%と最も高く、次いで「困りごとを抱えた人に気づき、早期支援につなげる仕組みをつくる」（42.2%）、「困りごとを気軽に相談できる身近な福祉相談窓口を充実する」（35.3%）、「地域における福祉活動の活動費や運営費などの資金的な援助を行う」（29.4%）の順となっている。



7 包括的な相談支援体制の整備について

問8 近年、8050問題やダブルケア問題など、従来の福祉サービスだけでは対応することが困難な、複雑化・複合化した福祉的課題が表面化しています。庄原市では、今後、多様な生活課題に制度などの枠組みを超えて、分野横断的に対応する相談支援体制が求められています。庄原市で、このような包括的な相談支援体制を整備していくに当たり、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
(○印3つまで)

包括的な相談支援体制の整備については、「相談に行けない人や行かない人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する」の割合が49.2%と最も高く、次いで「より身近な場所で相談できるよう、地域で活動する人や団体の相談機能を充実する」(46.0%)、「相談を適切な支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを構築する」(37.4%)、「窓口の開設時間や相談を受ける方法を改善し、相談しやすい環境をつくる」(34.2%)の順となっている。



8 地域福祉を充実していくために必要な取組（自由記述回答）

問9 今後、地域福祉を充実していくために、貴団体をはじめ、地域住民や行政では、どのような取組（活動や支援・手助けなど）が必要であるとお考えですか。

地域福祉を充実していくために必要な取組について、自由記述方式で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。なお、自由記述については、誤字等の修正を除き、原文に基づいて組織形態別に掲載している。

<貴団体でできること>

自治振興区

- ・ ボランティア活動が、具体的にどのようなことがあるのかが分かれば、自分たちでできそうなことをすることができると思います。子育て支援等、自治振興センターと協力しあって、地域活動を支援しています。
- ・ 高齢者、障害者、子どもなどの“真にしんどい”実態把握（表面的な実態ではない部分）。より一層、近所を中心とした気遣いから始まる“さりげない見守り活動”を充実させる取組。
- ・ ①おたがいさまネットを充実させ、高齢者の見守り生活支援、災害時の避難支援などを行える具体的な体制づくり。②子育て環境を整え、子どもを育てやすい状況づくりを行い、子どもの数を増加させる。
- ・ 今はコロナでコミュニケーションがとりにくい。明善の常会も班長次第でなしになったりして、協力して取り組むのが難しい。現在やらしてもらっている団体を声掛けして守っていくことが、今は精一杯です。
- ・ 現在コロナの影響により、地域活動が実施できない状態が続いております。（調査票の記載例に書かれていることは、これまで実施しておりました。当然、落ち着けばこれまで同様、上記にある活動は実施していきます。高齢者の見守りは、今後、更に充実しなければならない。
- ・ 高齢者だけになり、活動ができにくくなっている。
- ・ 高齢者や障害者、子どもへの見守り活動の充実。なるべく声を掛ける、誘い出す、お話を聞く、一緒に体を動かす。（コロナ禍では、難しいのですが・・・。）
- ・ 社会福祉部等、自治活動を行っているが、特定の者しか自治会等から選出されず、地域に広がりにくいのが現実である。参加者に特典を与えるなど、参加者の範囲を広げたい。
- ・ 住民同士が、いろいろと話し合える機会。
- ・ 地域の人たちが集まって交流できる楽しいサロンを目指しています。毎回、何をするか考えるのが大変で、小物づくりやカルタ大会、塗り絵、軽い運動等を今までやってきました。他のサロンで、どんなことをしているのか知りたいです。あと、1時間程度でできる物づくり等を教えてください。簡単にできる物づくりの載った本や資料、テキスト等があればほしいです。他のサロンとの交流等もあれば良いと思います。
- ・ 地域福祉活動として、住民をまきこんだ地域サロン（地域食堂）などを計画している。また、ひきこもり当事者就労支援を行っている。

- ・地域福祉の充実は重要な事項であることは理解できますが、当自治振興区では少子高齢化に伴い会員数が大幅に減少していることにより、活動が困難な状況です。
- ・福祉に対する意識が全体に少ないため、住民意識の醸成を図る対策が必要と感じる。
- ・私たちのグループは後期高齢者が大半なので活発な活動はできないが、家にひきこもる人が出ないように見守り合う。

地区民生委員児童委員協議会

- ・記載例3件とも必要。民生委員、高相連、自治振興区、自治会、老人クラブ、子供会等、一堂に会し交流する。集まりの場、特に自治会（班）の集まりが減っている。地域福祉の基本は小集落にあると思う。小集落の充実を！（実際には難しい。）
- ・行政と住民が自由に話せる場づくり。行政、社協、自治会との話合いの場づくり。住民同士の交流の場づくり。
- ・住民自治組織（常会・自治体・自治振興区）の内実、質的な充実、特に「自治振興区を中心にして」とよく表現されるが、自治振興区センター職員と地域役員の交流を通じ、その充実を図ることが肝要。キーワードは自治振興区職員の質。
- ・住民への声掛け。（なにげない声掛けから時間をかけて信頼を得て、相談してもらえようにする。）住民から情報を得て、関係機関へつなぐ活動。子どもへの見守り活動の充実。
- ・登下校時の見守りや声掛け運動及び長期休業（夏休み等）時の見守りや子育て交流。居場所づくりや地域行事等を通じた地域住民と行政との関係づくりの推進。住民の諸課題の深刻化防止に向け、積極的な情報提供を得られる関係づくり。取組、情報の発信等。
- ・身近な地域で、住民が世代等を超えてつながり、支え合う取組。
- ・各地域でサロンづくりを推進している。小学校の登下校のとき、児童の見守りをしている。
- ・コロナ禍で、地域住民同士の交流。高齢者福祉。
- ・コロナの発生から3年目に入り、他村とのコミュニケーションがとれなくなっている。コロナが終息したら、コミュニティの復活を願う。

ボランティア団体

- ・音声による周知データの作成。
- ・高齢者の見守り活動の充実。災害時の声掛け等の訓練実施。日常の住民同士の絆。
- ・防災意識を高めるための研修会。（日本赤十字社県支部から講師を招いて開催している。）庄原支部の構成団体各々において活動している。（本、新聞の読み聞かせ、手話、ふれあい給食など。）
- ・昔ながらの地域の行事（門松づくり、灯籠づくり）の伝承の支援と老いと若きの交流を図る。地域住民との交流の場と高齢者への支援活動。（鎌や包丁研ぎ。）
- ・私たちは、一人一人の活動は無理。高齢者もいるので。グループでできることは、お手伝いしたい。できることはお手伝いしたいが、今、少し考えてどうすればいいかなあ。
- ・子どもの見守り活動の充実。

- ・地域住民との協力。自治会内の老人会の福祉活動として、シルバーリハビリ体操定例教室を実施している。
- ・家族を扶養する責任を負いながら、より良い職業に就くため、また技術の向上を図るために教育や訓練を受けている女性を支援しています。
- ・障害者施設に対する、行事のボランティア活動をしている。
- ・全員が集まって話合いの場が持てない。何が不足して、何の手助けをしてほしいのかが見えてこない。自分たちも分からない。
- ・認知をあげていく、呼び掛けを頻繁にする。人材の掘り起こしを積極的に行う。
- ・奉仕者と利用者の交流。利用者の思いや要望を聞き、それを受け止め実行する。
- ・私たちはピンクのTシャツを着て、いろいろな行事やサロン等の活動で、地域の皆さんと健康体操を中心に行ってきました。一日も早くコロナ禍の収束を願い、また、元気に活動できることを祈り願っています。

サークル活動団体

- ・共生で住みよい地域を。住みよい地域づくりのために、様々な出来事に対応できる心のゆとりを持続したいものだ。先日、私は学生時代の先輩から、共生という言葉の意味を学んだ。私なりに要約すると、地域に住む異なる立場の人々が、お互いに相手の存在を尊重すること。人々の多様な価値観を満たす、豊かな生活の実現のために「競争」の中から「協調」を求めることを教わった。人々が望む未来づくりには、お互いが知恵や経験を生かし、力を合わせて努力することが大切だ。
- ・高齢者で男性ばかりの団体です。できることは限られているのですが、子育ての方々との交流は続けていこうと思っています。しめ縄づくり。花もちづくり。地域の人とのグランドゴルフ。近くへのお出かけ。
- ・子育て世代の横のつながりをつくる。
- ・子育てについて話をする場の充実。親子でできる運動。
- ・自分らの趣味で活動をしているグループなので、福祉活動のお手伝いができればと考えています。
- ・庄原市身体障害者連合会（以下、当連合会）の会員数の減少が進んでいる中で、他組織との交流スポーツ大会を計画し、当連合会の認知度を上げることによる会員減少の歯止めをしたいと思っています。当連合会又は他の組織共催、あるいは他組織への参入により、少しでも障害者間の距離をせばめ、ひいては社会に貢献できないかなと思ひ、今年からまずはスポーツ大会の協同開催を計画してみたいと思っています。コロナ禍ではありますが、実現するべく努力をしてみる予定です。当連合会としては、とにかく動かないことには始まらないと思っています。
- ・地域住民との交流や笑顔を忘れないように、会員にはいつも話をしています。町内の中で全域に会員がいて参加する中、どういうことがあるか、していかなければならないことが1つでもでてきたなら、皆で話し合うようにしています。町の講演会などは全面協力して参加するようにしています。
- ・①高齢者、障害者の見守り及び情報収集、共有。②困りごとなどの共有、解決。

- ・育児用品を譲りたいという方は多くいます。また、必要としている方もいらっしゃると思うのですが、その辺の実態が見えてきません。更に大型の育児用品（ベビーベッド、チャイルドシート等）の受け渡しもできたらと思うこともありますが、置き場所がないため、今は基本的には受け付けていません。本当は、こうした高額の物ほど譲ってほしい人がいるのではないかと思うのですが……。充実したいことはありますが、活動メンバーが少ないこと、物品の置き場所等の問題があり、これ以上の活動は難しいです。
- ・子育て中の親が、リフレッシュできる活動の企画と実施。
- ・多様な活動を通して、高齢者の健康寿命を伸ばしていくことに貢献したいと考えている。ともすると、家にひきこもりがちな高齢者に活動の場を提供し、人とつながることの喜び、社会との関係性をつくっていくことが大切だと思っているから。

老人クラブ

- ・原則、毎月開催する理事会において各地域の状況等の情報交換を行い、実情を把握する。本会が設置する専門部等（社会福祉部、交通・生活安全部、保健体育部、広報部、総務部、女性委員会、若手委員会）において、各部門の活動や研修会を実施する。
- ・お互いの顔を見て、安否確認。不参加者の安否情報。認知予防の話。老老介護の話。
- ・住民の交流の場をつくる。（サロン、イベント、行事等。）

サロン運営グループ

- ・地域住民の学校開設。高齢者の集まりへ、社会の新情報等解説、指導してくれ上手な日常生活の送り方等、マネジメントしてくれる人に定期的に来てもらい、地域の活性化に力をもらいたい。（本当にこだわったおいしい物や1品づくりをして発信。古くからやってきた物を使い、新しい物とコラボ等。）
- ・活動していくのには移動手段が必要。
- ・共通の趣味などあれば、一緒にやってみる。
- ・近所同士で助け合うことができるように、日頃からコミュニケーションをとっておくことが大切に思います。サロンを通して、顔を見て話をして困っていること、心配なことが気楽に話せるような相談窓口になっていければ良いと思います。
- ・交流の機会を増やす。隣家とコミュニケーションをとるなど。
- ・高齢者の集いではありますが、お互いの見守り。子どもたちとの交流。（コロナ禍以前は、雛祭りに保育園児との交流や小学校との交流をしていた。）
- ・高齢になっても安心して住めるよう、住民同士の交流の充実。
- ・サロン立ち上げの目的の1つに、地域福祉のお手伝いを上げていて、Dホームのスタッフとして活動していましたが、高齢となりDホームの会員となる方もありうる。今年度からは2名ほどが引き続きスタッフを担っている。（Dホームの会員さんも開設時は20名以上が今は10名以下。）子どもも少なくなり、当地域に小学生はいないため、ぽんぽこ保育所にイベントなどで参加している。
- ・住民同士の交流の機会の充実。住民同士で気軽に助け合うことのできる関係づくり。
- ・従来の参加メンバーだけでなく、地区の人が全員参加できる会合も計画したい。（年1～2回は全体を対象にする。）

- ・住民同士の交流の場を多くする。地域の環境美化。いのしし、ヌートリアなどへの対応。
- ・住民同士の交流の機会をもっと増やす。現在コロナ禍でサロンを開催することは難しいので、なかなか交流の場が持てない。困りごとなど、隣近所に遠慮なく言える地域づくり。
- ・宝物の子どもを見守ってあげたい。近所、仲良く。困りごとを気軽に相談できる窓口がほしい。
- ・地域住民同士の日頃からの声掛けで信頼関係をつくる。一人暮らしの人が、気軽に買い物等応援のサインが出せれるように！
- ・地域住民の福祉の意識づくり。啓発活動の充実。住民同士の交流機会の充実。
- ・集えるテーマ、ツールの発掘（メンバーの状態に合わせ）を行いつつ、集まりの機会を設け続ける活動。メンバー間の声掛け。地域の美化活動。
- ・隣近所同士で助け合う体制。「見て見ぬふり」をしない意識。
- ・日常生活の中で、お互いの助け合いや情報の共有など、連帯する力をつけるような関係を築いていく。地域が元気になるような活動を行う。
- ・メンバー間及び同居の家族、所属する地域での福祉の意識づくり、活動を積極的に行う。私たちができることが何なのか常に話題にし、できることから地域活動に協力し活動する。
- ・高齢者の生活を支援する活動の充実。声掛け、見守り。家屋周辺の整備（草刈り、雪かきなど）。話し相手。買い物援助。外出時の付き添い。
- ・①地域住民の交流の場づくり。②健康寿命延伸活動につながることなど。
- ・2020年3月より約2年、サロンをしていない。過疎と高齢化の進む当地区において、絆を保つためにサロンがいかに大切であるかを改めて認識させている、新型コロナウイルスである。
- ・集まる日数が少ないサロンを楽しみにしてもらい、世話をさせていただいて嬉しいですが、来れない人、また家族がいても外とのつながりも少なく家族関係にも問題がある人への手助け。
- ・今のサロン活動でできることはあまりないですが、ちょっとした手助け、声掛け等の活動は続けていきたい。また地域での困りごとがあれば、協力できることがあれば手伝っていきたい。
- ・今までも地域の方とサロンメンバーとの交流を大切に活動してきましたが、これからも続けていければと思っています。しかし、10年続けてきましたが、メンバーの高齢化に伴い、現在の活動内容の継続が難しくなってきました。これからは内容を変更して進めていく予定です。
- ・いろいろな高齢者問題は人ごとではありません。目の前にある自分たちの問題です。今、私たちがどんな活動ができ、支援、手助けができるか、いろいろな会に出席して勉強し、身につけたい。そして一番は自分たちが楽しむことです。
- ・高齢化が進み老人社会になってしまった今、青少年、若年層との交流拠点を築き、次世代にノウハウの継続を図る場、機会を設ける場をつくるべきだと思う。できるだけ早く、本当は行政ではなく、小さい地域でやるのが先でしょうが。
- ・高齢のため取り組むことができない。

- ・久代ひま人の会は、創造型サロンとして3年目となる。活動は、エゴマ栽培を通して、高齢男性がサロン活動を通じ、交流を深めることを目的としている。設立3年目でエゴマ販売収入により、収支は黒字となっている。現在、地域活動は「とんど」「門松」「センター周辺の草刈り作業」等に取り組んでいる。更に、サロン活動で得た高齢者の生活情報について、振興区、民生委員、高齢者巡回相談員、東城支所や社協に知らせている。
- ・高齢化が進み限界集落になりました。一人暮らしは、不安を抱えての生活です。支援と声掛けが大切だと思います。いつも声を掛けていただき、ありがとうございます。
- ・高齢者や子どもへの見守り活動。
- ・高齢者や障害者の見守り活動の充実。一人暮らしの人が増えて、買い物等に困っている。
- ・高齢者や一人暮らしの人々への見守り活動。絆づくり（隣り同士）。
- ・子育て世代と地域の高齢者との世代間交流を行い、共にお互いの見守り活動をする。
- ・このサロンの常時参加者は女性のみ。男性も高齢だったり、一人だったりするが、横のつながりが密のようでこのままの形態で良い。自治振興区に地域全サロンの交流活動の場を設けてもらっても、参加は少ない。
- ・困りごと相談に行けない人を窓口に取り込む健康づくり。話し相手。介護予防、体操。社協の出前講座を受け、家族や住民と食生活を改善する。
- ・サロンとしては、地域福祉活動など何もしておりません。サロンのメンバー全員が高齢者で受け身なのです。
- ・サロンにいろいろな年代や男性、障害のある方にも声を掛けたいが、内容の企画が課題であるので、充実させ大切な時間としたい。
- ・サロンにいろんな人に参加してもらいたいが、もっと内容を充実しないとと思います。
- ・市社協比和地域センター区域内、行事、取組等、私たち高齢者です。できることは、ゆめのいえのそうめん流し、竹を組んで流し台を作成。餅つきの取組準備。赤い羽根共同募金。グラウンドゴルフ大会のホール設定。福祉教育の支援。サポートホームひなたぼっこの廊下の改修等。
- ・自治会との連携。
- ・自治会の活動の充実。行事に参加していく姿勢。
- ・住民同士の交流機会の充実。
- ・住民同士の交流を深めて、何かあったら気軽に話せるように。今は交流が少ない。人は一人では生きていけないということ。
- ・住民同士の声掛けも難しい。
- ・集落のコミュニティの維持、集落機能の継続。人口構成等データ、人材等も含めて（AI診断）。集落の意志決定。
- ・シルバーリハビリ体操をやりたいのだけど、人が集まらない。もっと人が集まるように宣伝してもらいたい。
- ・新型コロナの影響で、高齢者が独居でおられることにさみしさを口にされるが、集まる場の回数が少なく、もっと工夫して実施していきたい。幹事会では、いろんな意見がでています。
- ・誰でも参加できる開かれたサロンづくり。

- ・地域住民の方の様子など、情報を得ることができる。
- ・地域で全員が困ったことをすぐに相談できる環境をつくる。困ったことを遠慮なく、迷いなく話せること。
- ・小さなサロンなので、特別な取組や活動は考えていない（現状維持）。
- ・ちょっとした困りごとや手を貸してほしいことなどを、気軽に地域（隣近所）に頼めるのが、ごく当たり前のこととして定着できるようにすること。
- ・できることと言われれば難しいが、近年の異常気象の中で防災に対し、考えなければいけないと思う。我が地域の消防団は親身に活動してくれるが、地域住民も危機意識を持つ努力をしていきたい。
- ・隣近所で常々声掛けをしながら、お互いのことを知り、その都度助け合っていくことが大切だと思います。特に高齢者ばかりの家庭が多い中で、とても大切なことだと思います。
- ・年齢を重ね、外出が難しい。見守り活動から始め、ゆっくり交流を深めていきます。
- ・一人暮らしの高齢者や日中一人になる高齢者の方、家から出られない方などが顔を合わせ、楽しいひと時が過ごせるよう、楽しみが持てるようにしていきたい。元気な高齢者、地域でありたい。
- ・毎月定例化し、安否確認を目的に情報の交換をしています。健康寿命を延ばすためにも、活動を続け充実していきたいと思っています。
- ・末端の集まりですが、それぞれの立場を超えて、仲良く住み良い所であってほしいです。
- ・みやもとサロンは、今は高齢者が多いので活動らしきことはできませんが、サロンの代表者会議に出席してサロンでお話をしたり、こんな運動をしたら良いなど、お茶を飲みながら話しています。（コロナで今はできませんが。）他のサロンと交流したいけど難しいです。

社会福祉法人・一般社団法人

- ・啓発活動として活動報告。広報の作成。地域の小・中学校との交流。
- ・子育て支援（子ども食堂、子育て中の家庭への生活支援）。社会福祉教育（講演会の企画、専門職における講師の派遣）。社会福祉に必要なハード事業への支援。人材確保。
- ・障害児の相談及び連携等の調整を図る拠点づくり。関係機関とのネットワークの構築。
- ・世代間の交流による多様性社会の意識づくり。様々な社会課題に青年会議所は取り組んでおり、今後も社会課題に対する当事者意識を持った運動を展開して参ります。
- ・地域の皆さんに広く、施設での日々の生活、取組を知ってもらいたい。
- ・災害時の避難所の確保と誘導。
- ・地域住民やサークル等が主催する研修会等への専門職の派遣など。

その他

- ・住民同士の交流時の内容の充実。安心して行政に相談できる窓口の充実への協力体制。災害時における地域住民同士の声掛けの訓練などの充実。
- ・住民同士の声掛け、助け合い。高齢者見守り活動。
- ・毎月17日の朝の見守り、第2木曜日の下校時の見守りを続ける。

- ・川東地域は老人会員数の多いところ。なるべく楽しい内容を計画し、良い時期（コロナが落ち着き、許可になれば）に昼食を一緒に食べて、少しでも参加者が増えるようにしたいと思っています。孤立しないように福祉協議会と連携して、ご援助もお願いします。
- ・次世代の保護者へ協力できることを手伝う。助言する等のピアサポート。
- ・住民同士の交流機会を充実。
- ・地域（山間地）を見回りしてください。
- ・当組合は、ボランティア団体ではないため特にありません。今まで通り、奉仕活動（保育所等の修理等）や災害ボランティアなどは協力していきます。
- ・会を立ち上げてからまだ1年で、何が課題なのか見えない。人数も10名で、まだ十分な活動はできていない。（コロナで中止もあり。）だが、会を開催したときは「元気が出た」と話されるので、今は「それで良いのかな」と思っています。
- ・地域住民の情報交換。お互いの生活の中での話し合いをして、助け合っていく。
- ・地域に人数が少なく、80歳以上がほとんど。それだけに月に1度、女性だけが集まり、一人にならないように、それでも皆で助け合って、毎日を過ごすようにしている。

<行政（庄原市）が取り組むべきこと>

自治振興区

- ・行政と住民のつながりを深める活動。
- ・研修や講座等、開催して地域の人材育成をしていただきたい。生きがい（楽しいこと、健康について）など、みんなが集いやすい場の設定、交流の促進を図ってほしい。
- ・公共サービス、納税など行政にしか分からない内容について、住民に異変などがあれば機動的に動けることが必要。そうしたニーズが、今後ますます増加しそう。
- ・高齢者、障害者、子どもなどの“真にしんどい”実態把握。各分野における活動を担う専門職員を事業所に頼るのではなく、行政が確保する取組が必要。
- ・高齢者が安心して地域で生涯生活していけるための、インフラ整備。（交通手段の確保、生活支援等。）
- ・高齢者が出かけることのできる交通手段の確保。一人暮らしの方や生活する上で困っておられる方（病気等）の支援、連携、体制づくり。高齢者や障害者、子どもへの見守り活動。
- ・世話人、指導者の養成（ゲーム等を教えてもらうこと）、今もされていますが続けてください。財政的援助の継続と増額。
- ・組織横断的な支援、対策ができる仕組みづくり。地域交通の仕組みを地域のニーズから構築する抜本改革。スピード感のある、実行性のある仕事。
- ・地域で福祉活動のリーダーや活動を担う人材を育成する。地域福祉への関心を高める講座や研修会を実施する。
- ・地域との連携や民生委員協議会、高齢者等、一人暮らし相談員との情報交換、アドバイス等。
- ・地域福祉、老人会の大切さの話など。
- ・地域福祉リーダーの育成。官民が一体となつての活動の場をつくる。

- ・地域福祉活動の啓発活動。地域福祉を推進する専門員、リーダーの育成。地域の福祉活動に対する資金的支援。関係機関のネットワーク。
- ・独り身の方の見守り、話相手を必要とされる方に、積極的に対応できる人を確保する。義務的に対応する人ではない。人材の確保が早急に必要と考える。
- ・福祉サービスを充実させるための人材育成。
- ・保育料、医療費など子育てに関する公的支援の充実。子育て支援や若者支援など、次世代を対象とする施策の充実。高齢者福祉優先から若者支援へと政策の転換。教育の充実など人材育成に重点投資する。
- ・若者が希望を持てるような、長期的な取組。返済不要の奨学金の増額。ただし将来、地元庄原に帰り地域発展に貢献すること。
- ・①高齢者の生活支援。安価で便利な交通手段の確保。買い物などの支援。老後の生活不安のない施策（年金、老人ホームなど）。②子育て環境。若者向け住宅を建設し、若者に住んでもらい、子どもの人口を増やす。移住してきた子どもが、いつでもすぐ近くの保育所、小学校に入れる環境づくり。（移住して来られた子育て世帯の方が、山内保育所の入所を希望されたところ、定員がいっぱいとのことで、遠い保育所に行かざるを得なくなった。市が定住を推進し、子どもを増加させたいという方針を持っているのであれば、こういう対応は非常にイメージが悪い。改善が求められる。）
- ・可能な限りの情報提供をしていただき、共に取り組む体制を構築してほしい。
- ・行政は手一杯だと思うので、できることは小地域で取り組むべきかと。
- ・啓発活動の充実。
- ・自治振興での活動に対して、後押しをお願いしたい。
- ・記載例の活動の経費補助等、予算面での支援。
- ・団体の活動の指導と支援。
- ・地域福祉を充実させるためには、行政は各々の関係部署が横の連絡を密にさせていただくとありがたいです。
- ・地域包括ケアシステムについて、もっと本気に啓発に関わり、具体的に市としての支援部分がどこかを明確にし、社協との連携の中で、行政部分の対応について具体化すること。
- ・本団体以外にも、私は「ファミリーサポート制度」（児童福祉課担当）に「提供会員」として登録し、子育てのちょっとしたことに困っていらっしゃる家庭の支援を細々とではありますが、行っております。その「提供会員」として動ける人が増えるといいのですが、子どもさんを預かるのに「時給 600 円」という手当では、なかなか勧誘もできません。子育ても大切にする庄原なら、もう少し市の援助を増額していただけたら嬉しいです。
- ・もう少し過疎地のことに力を入れて、取り組んでほしいです。高齢者ばかりになって大変です。

地区民生委員児童委員協議会

- ・課をまたいでの情報共有など連携が必要ではないか。無縁社会を減らす対策を！限界集落をつくらないこと！
- ・相談窓口の一本化（相談したときに、たらい回しにせず対応してもらえるよう）。人材育成（退職後の人材育成）。各自治振興区へ、特色ある活動に対する財政援助。
- ・地域住民による支え合いと公的支援を連動させ、地域を丸ごと支える包括的な支援体制の構築。
- ・地域住民の目線で話を聞く姿勢。情報共有及び役割分担。地域の関係者、団体等との連携、協力、その連携体制の構築。
- ・行政が取り組むことではないが、今後のことで振興区及び自治会の役員の成り手がいないのが、今の現状ではないでしょうか。高齢化が進み、今後どうなるか心配しています。民生委員も欠員がでている状態です。
- ・地域住民が高齢化して、活力が減少している。高齢者でも取り組める産業の育成を願う。
- ・何事も行政（公助・共助）に求めることが簡単で済むが、そうではなくて今問われているのは「民の力（互助・自助）」の総力をどう結ぶかということだと実感している。当事者が「発信して立ち上がらない」と、何事も解決には至らない。行政はそこをどう「くすぐる」ということだ。
- ・民生委員の成り手不足で、今、庄原地区では2名欠員が出ておりますが、何とか解消できるような策を考えてほしい。

ボランティア団体

- ・行政の相談窓口の充実。地域福祉について、高齢者に理解しやすいパンフレットの配布。小地域サロンの充実。
- ・高齢者にインターネット、スマホと言われても無理。個々の家庭にない所もある。オフトークも一回では電話番号など覚えられない。地域での配布、大きな文字で必要事項は必ずよく分かる所に貼るくせをつけるように。支所の周りをきれいに、自分たちの働く場所を今一度。学校通路も先生、生徒たちが少し考えて見ては。自転車置き場等。
- ・困っている人の相談窓口を一本化する。課をまたがなくてもワンストップで解決できるようにする。貧困家庭の子どもの教育をどう保障するか・・・など。市民生活課、教育委員会、保険医療課などが関係してくるので。
- ・他の地域の魅力ある活動などの情報や学習できる構造。学習会の開催やリーダー養成講座の開設。
- ・福祉サービスから取り残される人がないように、細かな支援活動の充実。
- ・高齢化が進み運転免許証の返納等で、衣・食・住の食の問題が日々の最大の活動となり、健康へのゆとり生活ができない人が増えてきた。周遊バスも活用されているが負担は大きい。用があれば、いつでも援助できる仕組みを行政で取り組めないか？
- ・応援団員の募集。
- ・県立広島大学庄原校の無料バスが有料になることで、アルバイト先が少ない庄原市では学生は大変と思うので、便を減らすか、せめて半額をご検討ください。
- ・広報での呼び掛けを入念にしていけること。各講座を多く開催していくこと。

- ・市民が日常の生活で困っているという情報を行政が入手した場合、速やかに支援ができるよう各団体や組織に、その旨通達し協議を行い、協力体制を整えること。
- ・少子化の中、外で遊ぶ子どもさんの姿がほとんど見られません。ゲームゲームの世の中になっていますが、子どもたちを中心としたイベント等を多く考えてほしいです。
- ・平成17年頃には、旧庄原市（庄原地域）でボランティア人口が20団体、1,000人であった。ボランティア連絡協議会に、全員が加盟していた。平成17年に小生が提唱して、庄原市赤十字奉仕団を結成して、半数の500人の加盟があったが、年々減少して現在はボランティア人口が200人以下ではないだろうか。ボランティアに対する行政の指導が、ほとんど行われていないと思う。何年か開催されていた「健康福祉まつり」は、ボランティアが支えていたと思う。「健康福祉まつり」が行われなくなって、市民の健康や福祉、ボランティアに対する関心が薄れて来た感がある。「健康福祉まつり」の復活を提唱します。

サークル活動団体

- ・地域の美化生活の強化を望む。美化活動は汚れる、疲れると敬遠されがちだが、ふれ合いや助け合いの場を提供してくれています。地域や近所の仲間が増え、会話の輪が広がっていくのが楽しみです。美化活動を充実させ、共同生活と共生の輪を大きく広げ、地域全体の活性化を一層促進し、明るいまちづくりを進めていきたい。（自分が平素感じていることを書いてみました。主旨に反するかもしれませんがお許しください。読みにくい文字、お許しください。）
- ・送り迎えはボランティアの人、保険に入るのも自己負担、活動するのも全部自己負担ですが、出かけることがなくなると言われると、やめられません。介護者の方はその日だけは、自分の自由になる。日頃できないことができる。休む時間ができるなどと話をされると、頑張れるかなと思いつけています。
- ・子育てのひきこもりやDVなどの早期支援。生活困窮世帯への支援。
- ・各福祉団体との話合いの場を設定していただければと思います。
- ・相談に行けない人や行かない人を発見し、相談をしたい人の窓口を一本化し、簡単に相談を受け事案が解決していくシステムづくり。
- ・①高齢者、障害者に対する交通手段の確保（手軽に身近に）。②生活環境の整備。（上下水道の整備。生活道の整備。）
- ・考えることが行政側と隔たりがあることもままあります。どちら側に立ち位置を置くかで、まるで違うものです。ただ行政としてはとか、こちら側としての言葉とか言われても一般の人は分かりません。考えも及びませんので、どのように捉えて活動していくのか思いつかないこともあります。活動するにも全部頼らずに自前での活動ですので、それに対して見ていただき、助言をいただきたいものです。
- ・企画をより広く周知できるネットワークの実施。
- ・地域住民の取組がやりやすくなるように支援していただくこと。山内自治振興区からも補助金をいただいているので、これも私たちにとってはありがたい支援です。活動場所の提供も月2回受けているので、安心して活動することができます。気軽に足を運べる場所があるということは、活動の原動力になります。

老人クラブ

- ・各地域でお助けをしていただけるボランティアが充実すればいい。
- ・本会の活動に対して、理解と支援をお願いする。

サロン運営グループ

- ・児童クラブ、子どもの館の遊具が使用禁止になっており、修理されないと聞きました。唯一の遊び場なので、是非修理してください。
- ・今現在、比和にはバスが午前中2本、午後2本運行されていますが、病院や買い物には時間帯が合わず、地域バスに庄原市内で月に数回でも運行していただくことはできないか。（一人暮らし高齢者が多く、商店もJAが1店、個人が2店でとても不便。）比和町内にも空き家が多く、何らかの方法を考えてほしい。●●診療所（固有名詞）がなくなり●●病院（固有名詞）が週3回継続してくださり、ありがたく思っています。現在地での診療を切にお願いしたいです。
- ・活動費の支援。地域の環境美化に対する対応と助成。いのしし、ヌートリア、ハクビシンなどの対策と助成。里山の保全保持。住みたい地域にするために。
- ・高齢世帯が多くなり車の運転ができない方の通院、買い物の手段などが不安。（自分も含め！！）
- ・市にとって、今一番の課題は、過疎対策であると思う。過疎化克服のための全体構想をしっかり立てることが大切で、そのために広く市民の意見を聞く取組をしてほしい。個々の問題として、デイサービス、サロン活動、地域医療等の維持が難しくなっている地域も出てきており、対策が緊急を要する。
- ・住民同士の交流の場を充実させていく中で、団体の中で世代交代ができれば良いのですが、世代の考え方の違いにより、難しいことが分かりました。年代により交流の場を考えてほしいと思います。団体メンバーの高齢化に伴い、やはりサポートする方がいないと継続が難しくなっていくと思います。その辺も踏まえて、交流の場づくりを進めてほしいと思います。
- ・住民の困りごとを聞く窓口を増やし、解決に向けて行動実践の方策を早急に見つけて動いてください。他の行政や横のつながりを持って、良い例は早く実行すること。住民に情報を知らせること。
- ・人口減少が著しいので、若者が働きたいと思う市にしてほしい。働ける企業をつくってほしい。
- ・生活交通の充実。
- ・地域住民の福祉への意識改革と啓発活動。地域マネジャーの育成。
- ・地域福祉の意義と重要性。周知、啓発など！
- ・複数の混在している課題を抱えた人や地域の課題の解決に対応するため、担当課の枠組みをよりフリーとした柔軟な動きができる組織体制の構築。併せて、従来の動きに固執しない幅広い視野を持つ職員の育成。この2点への取組を切に願います。その上で、様々な課題に取り組む庄原市の動きに成果が見えてくるのだと思います。
- ・高齢者の生活支援を充実すること。交通手段の充実（買い物、通院など）。福祉活動の意義や重要性について、啓発すること。

- ・自治会単位で「自主防災組織」を立ち上げて、この組織をベースに地域活動に結びつけていくように、自治振興区を指導・支援していくことを望みます。自主防災活動そのものに地域住民の助け合い、支え合いなどの活動のベースがあります。
- ・Iターン・Uターン、若い世代が戻って来やすい環境づくり。
- ・椅子など、レクリエーションの場などを積極的にやってもらいたい。
- ・運転できない人がほとんどで、私も高齢で送迎が難しくなりました。特に冬、市の方で助けてもらいたいです。
- ・各支所の住民課、高齢者の集い、老人会グループ等に傾注すれば？自治振興区の見配りに期待します。
- ・各地域にサロンをつくり民生委員がいる組織は、住民にとって幸せだと思います。
- ・過疎地域でも行政の目は届いているなと思えば幸いです。
- ・気軽に集いの場がほしい。集いの場のアピールをしてもらいたい。介護予防、健康づくり、調理、遊びの場がほしい。
- ・行事や研修会、サロンに参加する場合の交通手段（交通手段のない方の）を助けてもらいたい。
- ・行事や研修会、サロンに参加したくても、交通手段が難しい人を助けてもらいたい。
- ・行政においては、これまで十分に取り組んでいただいております。福祉は充実していると考えています。民生委員として直接経験したことで、ここまで地域包括センターがやってくださるのかと驚いたほど、ケース会議を何度もし、支援を行っていただきました。こういうことは、一般市民は知らないこと。
- ・啓発活動の充実。
- ・高齢者で車の便がないので、買い物とか医者にも行けなくなるのが困る。
- ・困りごとを早期に支援する。
- ・今後、交通網の整備など生活していく上で不便が多いので、話合いとかボランティアよりも、住みやすい庄原市になるといいです。総領町は、車がないと生活できません！！（タクシーも市内から呼ばないといけない。バスも何キロも歩かないとない。）
- ・最近では、コロナ禍で集まることに抵抗がある。
- ・西城町では高齢者が5割を超えている。
- ・サロンの集まりなどに行政の方が出席し、中に入り、何に困っているのか出席者の話を聞く。
- ・参加者が満足できるような、先駆的な取組の紹介。
- ・しあわせ館という最高の環境の場で行うことができ、感謝しています。温かく見守ってください。
- ・住民の生活情報を市に知らせても個人情報開示できないと言われ、当事者に伝えることができない。対応が遅れて事態が悪化している現実がある。少なくとも自治振興区事務局には状況を知らせるべき。見守りは、老人会やサロン、行政等のできる。民生委員、高齢者巡回相談員を合わせれば、情報量が増し対応が早くなる。
- ・地域にこのような環境をつくることを支援していくこと。住民から相談されたときに、すぐに最良の方法で対応する。
- ・問7の①から⑩まで全部、取り組むべきこと。

- ・集落や自治会、自治振興区の各再編やビジョンの作成。間に合うように手を打ちましよう（人口構成等データ、人材等も含めてAI診断）。学校の再編も同じ。学校の問題は、地域がリードしてはダメです。保護者がリードして、実現したい教育内容を実施できる学校をつくること。地域づくりも同じです。①課題の解決②ビジョン実現、やることはこの2つだけ。
- ・直面する高齢者福祉に目を向けがちであるが、10年後、20年後を見据えて、社会が持続するような基盤を整備すべきである。何かというと、若者対策、子育て支援である。若者世代の所得水準は低く、就労の場も少ない。これでは若者が定着しようと思ってもできない。更に子育て世代への積極的な支援、教育の充実が必要。机上の知識を優先させるような今の市の教育方針では、自ら考える力が育まれない。こうした人材育成ともいえる子ども、若い世代を支援していくことが総合的な福祉力の強化につながっていく。
- ・福祉担当者（係含む）を増やす。（例）地域担当者。振興区との連携者等を増やす。
- ・見守り活動に対して住民に、この人は見守りの人だと分かるような物を身につける。（特に子どもに対しては、大人が良い人か悪い人、組内の住民かは分からない。）私たちはサロンを運営していくのは、自分たちが自分の身を守るために歩いて集会所に集まり、大声で笑い（今はできない）体を動かし、楽しく過ごすことを目的で始めたことですので、今回の問に対しては、いささか戸惑います。
- ・免許証を返納した人への交通手段。買い物は何とかできるが、我が地域から日赤、三次、広島等の病院へ行くとき、例えば広島の病院へ行く場合、庄原まで出なければならない。また、三次は西城までバスはあるが時間帯が難しい。大型バスよりもデマンド式交通はできないのだろうか？しかし、人鈴は分散した地域であり、学童もいるので難しい。悩ましい問題であるが。
- ・雪の処理など、もう少し簡単に依頼できるように！！
- ・若い人の仕事がない。
- ・私が民生委員をしていた頃の経験で意見を述べる。個人情報云々で、民生委員に情報を聞いても答えない。また、行政も参加する定例会（民生委員の定例会）で伝えたこと、行政にお願いしたことが行政の中で共有されているのか甚だ疑問である。（具体的な例）中年の男が一人暮らしで（近くに親戚なし）、近所の人や東自治振興区の人たちの心配の甲斐もなく、一人で亡くなっていた。

社会福祉法人・一般社団法人

- ・幼い子や障害のある人、若者、高齢者、全ての人が世代や性別、障害を超えたまちづくりに取り組む必要があり、SDGsにも沿ったものになると考えます。
- ・企業努力と共に、行政支援をどう回していくかが課題である。個々のケースに応じた企業支援策の検討が必要です。
- ・社会福祉協議会を核に福祉関連法人のネットワーク及びその指導。
- ・地域と交流の場の設定（場所、お金、時間の確保）。
- ・地域福祉活動の意義と重要性の周知、啓発。福祉相談窓口の充実。市民の声を反映できる資質をもった行政職員の人材育成。
- ・地域住民との連携とリーダーシップ。

その他

- ・リーダーになる人を育てる（若い人）。
- ・行政の相談窓口の充実。福祉における新制度を住民に早く知らせてほしい。高齢者に理解しやすい地域福祉の伝達。
- ・諸問題解決に向けたスピードアップ。
- ・現在のタクシーでの外出支援は利用しにくいいため、利用者が少ないのではないかと思います。
- ・障害児や障害者が参加、出ていける場。ボランティアの育成。
- ・人口減少の中で、若者が安心して暮らせるような施策を望みます。若者や子どもが元気であれば、年寄りも元気が出ます。
- ・地域住民の安心安全対策。サロンなどの活動に対して、予算を増やしてください。

庄原市 地域福祉の推進に関するお伺い

～ご協力のお願い～

皆様には、日頃から庄原市の福祉行政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

庄原市では、現在「第3期庄原市地域福祉計画」の策定に向けた取組を進めています。

この調査は、計画策定の基礎資料とすることを目的として、日頃、地域の福祉活動に積極的に関わっていらっしゃる団体や事業者の皆様を対象に、本市の福祉に関する現状や課題などをお伺いするものです。

調査結果は、事例研究として参考にさせていただき、計画策定の目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解の上、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年1月

庄原市 社会福祉課

記入に当たってのお願い

- 1 あなたが所属する団体の活動や日常生活の中で感じていることをお答えください。
- 2 回答が難しい設問については、可能な範囲で記入してください。
- 3 団体・グループの場合は、代表者又は活動の中心的役割を担っている方が記入してください。

調査に関する問い合わせ先

庄原市 生活福祉部 社会福祉課 障害者福祉係

〒727-8501 広島県庄原市中本町一丁目10-1

電話 (0824) 73-1210 FAX (0824) 75-0245

メール fukushi-syougai@city.shobara.lg.jp

記入した調査票は、**1月31日（月曜日）**までに同封の返信用封筒に入れて提出してください。

問1 貴団体のことについておたずねします。

(1) 団体の名称	
(2) 回答される方の 役職とお名前	
(3) 加盟者数又は加 盟団体数	

問2 貴団体の組織形態は、次のどれにあてはまりますか。(〇印1つ)

1 自治振興区	2 地区民生委員児童委員協議会
3 ボランティア団体	4 NPO法人
5 サークル活動団体	6 老人クラブ
7 サロン運営グループ	8 社会福祉法人・一般社団法人
9 その他 ()	

問3 貴団体の主な活動分野をお答えください。(〇印いくつでも)

1 高齢者支援	2 障害者支援
3 子育て支援・母子福祉	4 健康づくり・医療
5 ひきこもり・不登校対策	6 DV・虐待対策・被害者支援
7 低所得者・生活困窮者支援	8 地域の清掃・美化活動
9 消防・防災・災害支援	10 防犯・交通安全
11 リサイクル・自然環境保護	12 趣味・スポーツ活動・生涯学習
13 青少年健全育成	14 市民活動への支援
15 その他 ()	

問4 貴団体が日々の地域福祉活動を行う上で、困っていることはありますか。(〇印いくつでも)

1 活動する人が高齢化している	2 活動する人の負担が大きい
3 活動に参加する人が少ない	4 活動に参加する人が固定化している
5 新しいメンバーが入らない	6 リーダーや後継者が育たない
7 支援を必要としている人の情報が得にくい	8 市民のニーズに合った活動ができていない
9 活動内容に新鮮味や独創性がない (マンネリ化している)	10 活動している情報を発信する場や機会が少ない
12 活動する場所(拠点)の確保が難しい	11 活動資金が不足している
14 活動に関する相談相手がいない	13 活動に必要な専門知識や情報が少ない
16 特にない	15 その他 ()

問5 貴団体の活動において、庄原市では、どのような分野に問題点や課題が多いと感じていますか。
(○印いくつでも)

- 1 高齢者福祉
- 2 障害者福祉
- 3 子育て支援
- 4 地域住民同士の交流
- 5 防犯・防災など地域の安全
- 6 地域医療・病院・健康づくり
- 7 DVや虐待・人権に関する問題
- 8 ごみ問題や地域の清掃など環境問題
- 9 生活困窮、子どもの貧困、生理の貧困問題
- 10 ひきこもりや不登校問題
- 11 8050問題^{※1}やダブルケア問題^{※2}、ヤングケアラー問題^{※3}
- 12 その他 ()
- 13 特にない

※1【8050問題】高齢の親と同居する無職やひきこもり状態の子どもが抱える生活課題のこと。80代の親が50代の子どもの生活を支えるという事例が、その社会的背景となっている。

※2【ダブルケア問題】一人の人や一つの世帯が、同時期に介護と育児の両方に直面する状態に生じる様々な問題のこと。晩婚化や晩産化も一つの要因と考えられている。

※3【ヤングケアラー問題】法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを、子どもが日常的に行っている場合の様々な問題のこと。

問6 今後、庄原市では、どのような地域活動を活発に進めるべきだと思いますか。(○印3つまで)

- 1 地域を元気にする活動(自治振興区や自治会での交流活動など)
- 2 災害時の支援などの活動(物資の寄付、復興支援、災害時要支援者の見守りなど)
- 3 高齢者を支援する活動(家事援助、話し相手、見守り・声かけ、外出時の付き添いなど)
- 4 障害のある方を支援する活動(手話、点字、要約筆記、軽介助、外出時の付き添いなど)
- 5 子育てを支援する活動(子育て交流会や乳児健診、児童の一時預かりなど)
- 6 児童の健全育成の活動(スポーツの指導、子ども会の活動など)
- 7 介護予防や健康づくりの活動(運動教室、生活習慣病予防、食育など)
- 8 特技や趣味を生かした交流活動(手芸、調理、農作業、スポーツ、外国語、パソコン、陶芸など)
- 9 周辺環境を整備する活動(道路・公園の清掃、リサイクルなど)
- 10 地域の安全を守る活動(防犯パトロール、子どもの見守りなど)
- 11 その他 ()
- 12 特にない

問7 地域福祉を推進するために、行政(庄原市)はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(○印5つまで)

- 1 広く市民に対して地域福祉活動の意義と重要性を周知・啓発する
- 2 隣・近所同士で助け合う体制づくりを促進する
- 3 困りごとを気軽に相談できる身近な福祉相談窓口を充実する
- 4 地域で福祉活動のリーダーや活動を担う人材を育成する
- 5 地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する
- 6 地域における福祉活動の活動費や運営費などの資金的な援助を行う
- 7 福祉活動の相談や指導を担当する専門職員を増やす
- 8 困っている人と支援できる人との調整を図る人材を育成する
- 9 困っている人や助け合いの場、組織についての情報を入手しやすくする
- 10 地域福祉への関心を高める講座や研修会を充実する
- 11 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する
- 12 防災に関する関心を高める啓発を推進する
- 13 福祉サービスを利用する人の権利を守る制度を周知する
- 14 福祉に関わる人や機関とのネットワークを構築する
- 15 困りごとを抱えた人に気づき、早期支援につなげる仕組みをつくる
- 16 地域福祉の推進に向けた話し合いの場を充実する
- 17 その他 ()
- 18 特にない

問8 近年、8050問題やダブルケア問題など、従来の福祉サービスだけでは対応することが困難な、複雑化・複合化した福祉的課題が表面化しています。庄原市では、今後、多様な生活課題に制度などの枠組みを超えて、分野横断的に対応する相談支援体制が求められています。庄原市で、このような包括的な相談支援体制を整備していくに当たり、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○印3つまで)

- 1 市役所で多様な相談をワンストップで受け止める窓口の整備
- 2 より身近な場所で相談できるよう、地域で活動する人や団体の相談機能を充実する
- 3 相談に行けない人や行かない人を発見し、窓口につなぐ取組を充実する
- 4 相談を適切な支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを構築する
- 5 課題解決に向けて、サービスの開発や社会資源の発掘に力を入れる
- 6 窓口の開設時間や相談を受ける方法を改善し、相談しやすい環境をつくる
- 7 その他 ()
- 8 特にない

問9 今後、地域福祉を充実していくために、貴団体をはじめ、地域住民や行政では、どのような取組（活動や支援・手助けなど）が必要であるとお考えですか。（例を参考にお答えください。）

<p>例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民への福祉の意識づくり、啓発活動の充実 ・ 高齢者や障害者、子どもへの見守り活動の充実 ・ 住民同士の交流機会の充実・・・など
<p>貴団体でできること （地域住民と協力して取り組むことを含む）→</p>	<p>【具体的にご記入ください。】</p>
<p>行政（庄原市）が 取り組むべきこと→</p>	<p>【具体的にご記入ください。】</p>

～ ご協力ありがとうございました ～

庄原市 地域福祉の推進に関する関係団体調査 報告書

発行／令和4（2022）年3月
発行者／庄原市 生活福祉部 社会福祉課 障害者福祉係
〒727-8501 広島県庄原市中本町一丁目10-1
電話（0824）73-1210
FAX（0824）75-0245
E-mail fukushi-syougai@city.shobara.lg.jp
